

羽島市  
第2期保健事業実施計画  
(データヘルス計画) 最終評価

平成30年(2018年)度～令和5年(2023年)度

令和6年(2024年)3月

羽 島 市

# 目次

<b>第1章 羽島市第2期保健事業実施計画（データヘルス計画）の最終評価に当たって</b> .....	1
1. 最終評価の趣旨 .....	1
2. 計画の位置づけ .....	2
3. 目的・目標.....	5
<b>第2章 第2期計画以降の羽島市の状況</b> .....	6
1. 羽島市の概要 .....	6
2. 羽島市国保の概要.....	8
<b>第3章 保健事業の最終評価</b> .....	10
1. 個別保健事業の実施内容.....	10
2. 目標に対する最終評価 .....	16
3. 第3期計画目標値の設定.....	25
<b>第4章 評価の公表・周知及び個人情報の取扱い</b> .....	26

# 羽島市第2期保健事業実施計画

## (データヘルス計画) 最終評価

### 第1章 羽島市第2期保健事業実施計画(データヘルス計画)の最終評価に当たって

#### 1. 最終評価の趣旨

データヘルス計画は、生活習慣病対策をはじめとして、被保険者の自主的な健康増進及び疾病予防の取組みについて、保険者がその支援の中心となって、被保険者の特性を踏まえた効果的かつ効率的な保健事業を展開することを目指すものである。

平成25年(2013年)6月14日に閣議決定された「日本再興戦略」において、「全ての健康保険組合に対し、レセプト等のデータの分析、それに基づく加入者の健康保持増進のための事業計画として「データヘルス計画」の作成・公表、事業実施、評価等の取組を求めるとともに、市町村国保が同様の取組を行うことを推進する。」とされ、当市においても平成27年(2015年)度から計画を策定し、進めている。

現在、平成30年(2018年)度から令和5年(2023年)度の6年間とする第2期データヘルス計画を実行しているが、この中で「平成32年(2020年)度に進捗確認のための中間評価を行う。」とし、令和3年(2021年)3月に中間評価を公表した。

また、「計画の最終年度の平成35年(2023年)度においては、次期計画の策定を円滑に行うための準備も考慮に入れて最終評価を行う。」としている。

そのため、令和5年(2023年)度までの6年間の計画目標達成状況について、令和4年(2022年)度の実績値をもとに最終評価を行うものである。

## 2. 計画の位置づけ

羽島市第2期保健事業実施計画（データヘルス計画）は、被保険者の健康の保持増進に資することを目的として、効果的かつ効率的な保健事業の実施を図るため、特定健康診査等の結果、レセプトデータ等の健康・医療情報を活用して、PDCAサイクルに沿って運用するものである。（図表1、図表2）

計画は、健康増進法に基づく「基本方針」※1を踏まえるとともに、「第3次ヘルスプランぎふ21(岐阜県健康増進計画)」や「元気はしま21(羽島市第2期健康増進計画)」、「第3期岐阜県医療費適正化計画」、「第7期羽島市高齢者福祉計画・介護保険事業計画（現在は第8期）」と調和のとれたものとしている。（図表3）

※1 「基本方針」とは、「二十一世紀における第二次国民健康づくり運動(健康日本21(第二次))」であり、平成25年(2013年)度から令和5年(2023年)度までの健康寿命の延伸と健康格差の縮小等を基本的な方向としている。

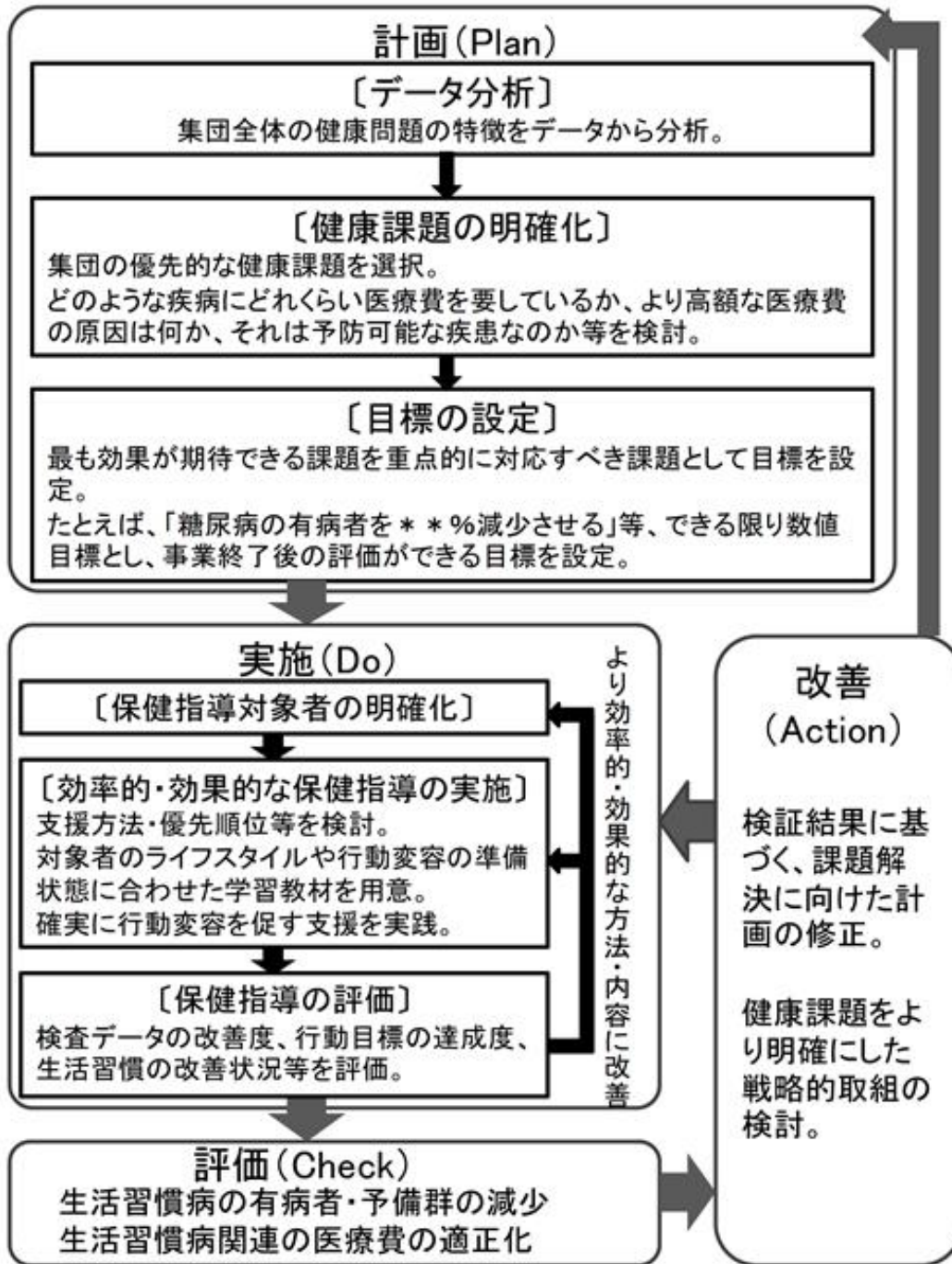
【図表1】



出典：標準的な健診・保健指導プログラム「平成30年(2018年)度版」

【図表 2】

### 保健事業(健診・保健指導)のPDCAサイクル



出典：標準的な健診・保健指導プログラム「平成30年(2018年)度版」

用語解説：保健事業のPDCAサイクル

健康・医療情報(健康診査や医療に関する情報を活用して、保健事業を継続的に改善するため、P(計画)→D(実施)→C(評価)→A(改善)を繰り返し、見直しをすること。

保健事業実施指針より



### 3. 目的・目標

羽島市第2期保健事業実施計画（データヘルス計画）では、以下の2つを健康課題として挙げ、課題を解決するために中長期的な目標（計画の最終年度までに達成すべき目標）と短期的な目標（毎年度の目標）を設定した。

#### 【健康課題】

- ①脳血管疾患・虚血性心疾患による65歳未満の死亡が多い。
- ②虚血性心疾患に係わる医療費、特に入院費用額が増加している。

#### 【中長期的な目標】

- ①総医療費に占める虚血性心疾患（狭心症、心筋梗塞）に係わる医療費の割合を、平成28年（2016年）度と比較して0.1%減少させる。

#### 【短期的な目標】

- ①特定健康診査受診率60%、特定保健指導実施率63%にする。
- ②メタボリックシンドローム該当者割合を、平成28年（2016年）度と比較して1.8%減少させる。
- ③Ⅱ度高血圧(160mmHg/100mmHg)以上の割合を、平成28年（2016年）度と比較して0.3%減少させる。
- ④HbA1c6.5%以上の割合を、平成28年（2016年）度と比較して0.3%減少させる。

## 第2章 第2期計画以降の羽島市の状況

### 1. 羽島市の概要

#### ①平均余命と平均自立期間

当市における令和4年（2022年）度の平均余命<sup>※2</sup>は男性80.8歳、女性86.5歳、平均自立期間<sup>※3</sup>は男性79.2歳、女性83.0歳である。平成28年（2016年）度と比較すると平均余命及び平均自立期間は男女ともに延伸している。（図表4）

※2 平均余命：ある年齢の人が、あと何年生きることを示す期待値。

※3 平均自立期間（健康寿命）：要介護2以上を不健康と定義した日常生活動作が自立している期間の平均。

【図表4】平均余命と平均自立期間

		羽島市			岐阜県	同規模市町村	国
		平成28年度	令和元年度	令和4年度	令和4年度	令和4年度	令和4年度
		(2016年)度	(2019年)度	(2022年)度	(2022年)度	(2022年)度	(2022年)度
男性	平均余命	80.0歳	81.8歳	80.8歳	82.4歳	81.6歳	81.7歳
	平均自立期間	78.5歳	80.1歳	79.2歳	80.8歳	80.1歳	80.1歳
	平均余命－平均自立期間	1.5歳	1.7歳	1.6歳	1.6歳	1.5歳	1.6歳
女性	平均余命	85.6歳	86.4歳	86.5歳	87.8歳	87.6歳	87.8歳
	平均自立期間	82.1歳	83.0歳	83.0歳	84.5歳	84.4歳	84.4歳
	平均余命－平均自立期間	3.5歳	3.4歳	3.5歳	3.3歳	3.2歳	3.4歳

出典：KDB帳票「地域の全体像の把握」平成28年(2016年)度(累計)、令和元年(2019年)度(累計)、令和4年(2022年)度(累計)

#### ②死亡の状況

当市における令和2年（2020年）度の死亡原因は1位がん、2位心疾患、3位老衰、4位脳血管疾患である。平成27年（2015年）度と比較するとがんや老衰の割合が増加し、心疾患や脳血管疾患の割合が減少している。（図表5）

【図表5】主要死因別死亡率

	平成27年度(2015年)度			平成30年度(2018年)度			令和2年度(2020年)度		
	死因	実数	死因割合	死因	実数	死因割合	死因	実数	死因割合
第1位	がん	166人	26.8%	がん	196人	27.4%	がん	198人	29.1%
第2位	心疾患	104人	16.8%	心疾患	111人	15.5%	心疾患	87人	12.8%
第3位	脳血管疾患	60人	9.7%	脳血管疾患	47人	6.6%	老衰	49人	7.2%
第4位	肺炎、老衰	41人	6.6%	老衰	42人	5.9%	脳血管疾患	46人	6.8%

出典：公衆衛生2016(平成27年度統計)、岐阜地域の公衆衛生2019(平成30年度統計)、2021(令和2年度統計)

※割合は人口10万対、死因割合は死亡総数に対する死因別の割合

当市における平成28年（2016年）度～令和2年（2020年）度の標準化死亡比（SMR）<sup>※4</sup>は、男性は糖尿病、がん、女性は心疾患、脳血管疾患、糖尿病、がんが高い。平成22年（2010年）度～26年（2014年）度と比較すると、男女とも、脳血管疾患、糖尿病、がんの標準化死亡比が特に増加している。（図表6）

※4 標準化死亡比（SMR）：国の平均を100として、100以上の場合は国の平均より死亡率が高いと判断され、100以下の場合は死亡率が低いと判断される。



【図表 6】標準化死亡比（SMR）

	心疾患		脳血管疾患		糖尿病		がん	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
平成22年(2010年)度～ 26年(2014年)度	111.3	113.1	85.0	112.7	98.9	132.3	96.4	101.2
平成25年(2013年)度～ 29年(2017年)度	107.8	118.5	88.2	138.2	106.8	185.4	104.9	102.8
平成28年(2016年)度～ 令和2年(2020年)度	95.1	103.6	90.8	131.6	106.2	173.0	106.8	108.7

出典：岐阜保健所資料

65歳未満の死亡割合は、平成27年（2015年）度と比較すると男女ともに減少している。死亡原因として、男性は心疾患と脳血管疾患、女性はがん、自殺の死亡数が減少している。（図表7）

【図表 7】65歳未満の死亡原因

		死亡総数	65歳未満 死亡数	65歳未満 死亡割合	主要死因				
					がん	心疾患	脳血管疾患	自殺	その他
平成27年 (2015年)度	男性	311人	45人	14.5%	14人	13人	5人	3人	10人
	女性	309人	25人	8.1%	13人	0人	0人	3人	9人
平成30年 (2018年)度	男性	392人	53人	13.5%	17人	5人	3人	7人	21人
	女性	324人	18人	5.6%	10人	2人	0人	3人	3人
令和2年 (2020年)度	男性	357人	48人	13.4%	21人	8人	1人	3人	15人
	女性	323人	25人	7.7%	12人	2人	0人	2人	9人

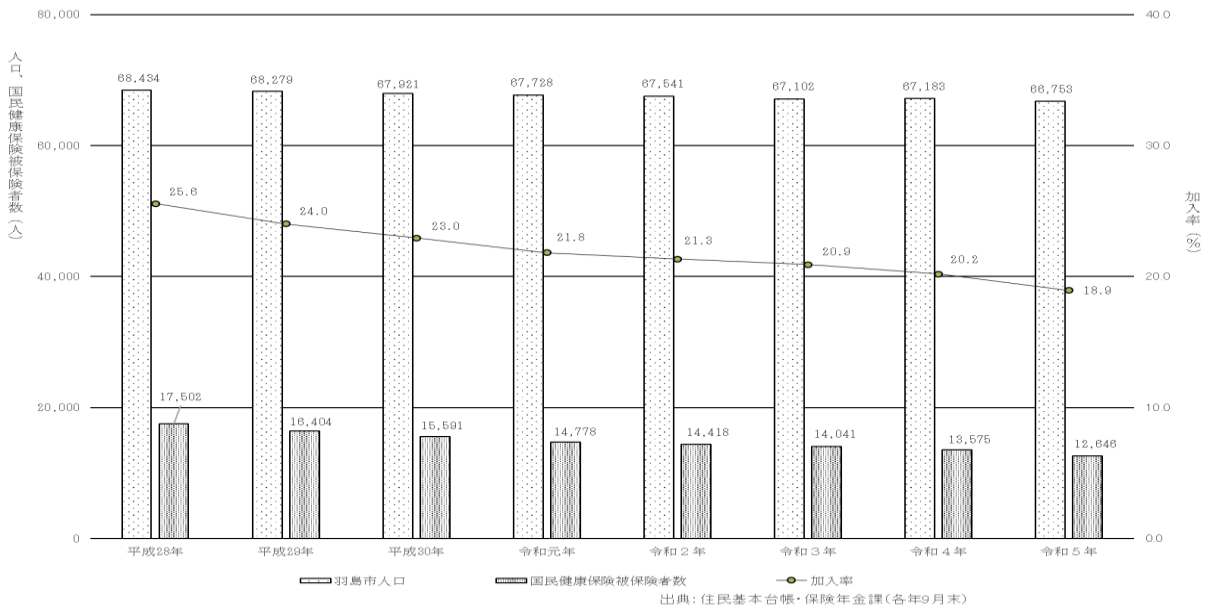
出典：岐阜地域の公衆衛生2016(平成27年度統計)、公衆衛生2019(平成30年度統計)、2021(令和2年度統計)

## 2. 羽島市国保の概要

### ①被保険者の推移と構成割合

当市の人口は、近年 6.8 万人を下回っている。令和 5 年（2023 年）9 月末では、国民健康保険加入者は 12,646 人、加入率は 18.9%となり、被保険者においても減少している。（図表 8）

【図表 8】人口・国民健康保険被保険者数・国民加入者割合の推移



### ②医療の状況

当市における令和 4 年（2022 年）度の総医療費は 46 億 7,672 万 1,280 円であり、平成 28 年（2016 年）度より減少している。令和 2 年（2020 年）度は新型コロナウイルス感染症に伴う受診控え、令和 3 年（2021 年）度はその反動で増加、令和 4 年（2022 年）度は再び減少となっている。（図表 9）

【図表 9】総医療費

	全体	増減	入院	外来
	費用額		費用額	費用額
平成28年 (2016年)度	51億6,771万9,980円		19億6,829万5,370円	31億9,942万4,610円
平成29年 (2017年)度	51億8,935万9,730円	2,163万9,750円	21億435万1,070円	30億8,500万8,660円
平成30年 (2018年)度	48億1,126万2,730円	△3億7809万7000円	19億5,073万8,380円	28億6,052万4,350円
令和元年 (2019年)度	46億4,442万3,490円	△1億6,683万9,240円	18億1,070万6,050円	28億3,371万7,440円
令和2年 (2020年)度	45億2,468万6,480円	△1億1,973万7,010円	18億989万2,780円	27億1,479万3,700円
令和3年 (2021年)度	48億221万2,020円	2億7,752万5,540円	19億2,101万9,340円	28億8,119万2,680円
令和4年 (2022年)度	46億7,672万1,280円	△1億2,549万740円	18億2,259万1,050円	28億5,413万230円

出典：KDB帳票「疾病別医療費分析(細小(82)分類)-1保険者当たり総点数(入院+外来)の計」×10(円)

当市における令和4年(2022年)度の1人あたり医療費は、入院17,480円、外来11,110円であり、平成28年(2016年)度と比較すると入院・外来ともに増加している。同規模市町村と比較すると、入院・外来ともに低く、県と比較すると外来は低い、国と比較すると、入院・外来ともに高い。(図表10)

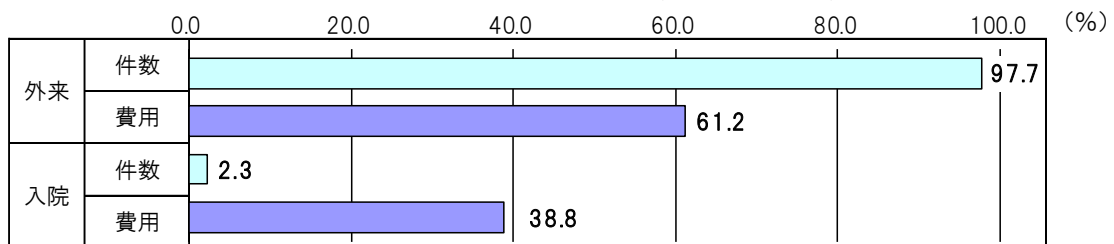
【図表10】1人あたり医療費(入院・外来別)

	羽島市			岐阜県	同規模市町村	国
	平成28年度(2016年)度	令和元年度(2019年)度	令和4年度(2022年)度	令和4年度(2022年)度	令和4年度(2022年)度	令和4年度(2022年)度
入院	9,290円	10,030円	11,110円	10,740円	11,980円	10,920円
外来	15,210円	15,770円	17,480円	17,970円	17,620円	16,660円

出典：KDB帳票「地域の全体像の把握」平成28年(2016年)度(累計)、令和元年(2019年)度(累計)、令和4年(2022年)度(累計)

当市における令和4年(2022年)度の入院件数は2.3%で費用全体の38.8%を占め、外来件数は97.7%で費用全体の61.2%を占めている。外来に比べ入院では、高額な医療費が必要となる。重症化予防により入院に至る者を減らしていくことが費用対効果の面から重要である。(図表11)

【図表11】入院と外来の件数・費用割合の比較(令和4年度)



出典：KDB帳票「地域の全体像の把握」

### ③介護の状況

当市における令和4年(2022年)度の介護認定状況は、1号保険者(65~74歳)の4.4%、2号被保険者(40~64歳)の0.4%が要介護認定を受けている。要介護認定者のうち要介護度3~5の重症者について、1号被保険者は36.9%、2号被保険者は43.5%と2号被保険者の方が高い。(図表12)

【図表12】介護認定状況

	受給者区分	平成28年(2016年)度		令和元年(2019年)度		令和4年(2022年)度							
		2号	1号	2号	1号	2号	1号						
	年齢	40~64歳	65~74歳	40~64歳	65~74歳	40~64歳	65~74歳						
	被保険者数	22,536人	8,031人	22,771人	9,421人	22,435人	9,197人						
介護認定状況	認定者数	79人	333人	90人	342人	85人	407人						
	認定率	0.35%	4.1%	0.40%	3.6%	0.40%	4.4%						
	新規認定者数	4人	10人	1人	6人	3人	3人						
介護度別人数	要支援1・2	7	8.9%	71	21.3%	7	7.8%	79	23.1%	9	10.6%	88	21.6%
	要介護1・2	32	40.5%	131	39.3%	39	43.3%	125	36.5%	39	45.9%	169	41.5%
	要介護3~5	40	50.6%	131	39.3%	44	48.9%	138	40.4%	37	43.5%	150	36.9%

出典：KDB帳票「要介護(支援)者認定状況」(令和2年(2020年)3月診療)、(令和5年(2023年)3月診療)

### 第3章 保健事業の最終評価

#### 1. 個別保健事業の実施内容

次の個別保健事業について、ストラクチャー、プロセス、アウトプット、アウトカムの指標に基づき評価を行った。(図表 13)

【図表 13】 評価における4つの指標

ストラクチャー (計画立案体制・実施構成・評価体制)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業の運営状況を定期的に管理できる体制を整備しているか。(予算等も含む)</li> <li>・保健指導実施のための専門職の配置</li> <li>・KDBの活用環境の確保</li> </ul>
プロセス (保健事業の実施過程)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保健指導等の手順・教材はそろっているか。</li> <li>・必要なデータは入手できているか。</li> <li>・スケジュールどおり行われているか。</li> </ul>
アウトプット (保健事業の実施量)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特定健診受診率、特定保健指導実施率</li> <li>・計画した保健事業を実施したか。</li> <li>・保健指導実施数、受診勧奨実施数等</li> </ul>
アウトカム (成果)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・設定した目標に達することができたか。 (検査データの変化、医療費の変化、糖尿病等生活習慣病の有病者の変化、要介護率等)</li> </ul>

#### ① 特定健康診査受診率の向上

目的	特定健康診査の受診により、早期からの重症化予防を推進し、医療費の抑制に繋げる。																														
実施(ストラクチャー・プロセス)	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 特定健康診査の周知・啓発 <ul style="list-style-type: none"> <li>・市広報紙、市ホームページへの掲載</li> <li>・市役所窓口の広報モニター掲載</li> <li>・保険証更新時にチラシの折込み</li> <li>・自治会、医療機関、公共施設等でのポスター掲示</li> </ul> </li> <li>② 未受診の人への勧奨通知の送付、電話による勧奨</li> <li>③ 自治会でのチラシの回覧、老人クラブでのチラシの配布、シルバー人材センターへのチラシ設置</li> <li>④ 健幸ポイント事業を活用した啓発</li> <li>⑤ イベント時の啓発活動</li> <li>⑥ 早期受診希望者に随時受診券交付</li> </ul>																														
評価(アウトプット・アウトカム)	<p>【図表 14】 特定健康診査実施率</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>平成28年 (2016年)度</th> <th>平成29年 (2017年)度</th> <th>平成30年 (2018年)度</th> <th>令和元年 (2019年)度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>割合</td> <td>33.40%</td> <td>35.20%</td> <td>36.00%</td> <td>36.30%</td> </tr> <tr> <td>県内順位</td> <td>31位</td> <td>29位</td> <td>32位</td> <td>35位</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>令和2年度 (2020年)度</th> <th>令和3年度 (2021年)度</th> <th>令和4年度 (2022年)度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>割合</td> <td>33.50%</td> <td>38.80%</td> <td>40.70%</td> </tr> <tr> <td>県内順位</td> <td>32位</td> <td>27位</td> <td>23位</td> </tr> </tbody> </table>					平成28年 (2016年)度	平成29年 (2017年)度	平成30年 (2018年)度	令和元年 (2019年)度	割合	33.40%	35.20%	36.00%	36.30%	県内順位	31位	29位	32位	35位		令和2年度 (2020年)度	令和3年度 (2021年)度	令和4年度 (2022年)度	割合	33.50%	38.80%	40.70%	県内順位	32位	27位	23位
	平成28年 (2016年)度	平成29年 (2017年)度	平成30年 (2018年)度	令和元年 (2019年)度																											
割合	33.40%	35.20%	36.00%	36.30%																											
県内順位	31位	29位	32位	35位																											
	令和2年度 (2020年)度	令和3年度 (2021年)度	令和4年度 (2022年)度																												
割合	33.50%	38.80%	40.70%																												
県内順位	32位	27位	23位																												

	<p>令和4年(2022年)度特定健康診査受診率は40.7%(法定報告値)であり、令和2年(2020年)度の新型コロナウイルス感染症に伴う受診控えを除き平成28年(2016年)度より増加しているが、目標値には達していない。受診率向上に向けての取組みは、上記の実施内容に加え、平成30年(2018年)10月からは未受診の人を対象とする情報提供事業を開始、令和元年(2019年)12月には未受診者対策事業(訪問勧奨)を行い、更なる受診率向上に努めた。</p>
課題	<p>毎年受診することを啓発し、自らの健康状態を継続的に把握することが重要である。特に、受診率が低くなっている男性や40歳～50歳代の受診に対する意識喚起が重要であるため、初受診の人への啓発や性別・年代に応じた工夫を加える受診勧奨の実施に努める。</p> <p>また、医療機関の受診状況をデータ分析し、被保険者の属性に応じる受診対象者のパターン分けを行い、パターンごとに内容を変えて受診勧奨はがきを作成し、受診勧奨の実施に努める。</p>

## ②特定保健指導実施率の向上

目的	<p>特定健康診査結果より、内臓脂肪の蓄積に起因するリスクに応じて、専門職が介入することにより、対象者自らが健康状態を自覚し、生活習慣改善に繋げる。</p>																											
実施(ストラクチャー・プロセス)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特定健康診査受診後2ヵ月を目安に健診結果及び特定保健指導案内を送付。対象者から電話連絡が入り初回面接を実施</li> <li>・連絡がない場合、健診結果の重症度の高い者へ家庭訪問</li> <li>・1人あたり20分程度個別面談</li> <li>・初回面接から3ヵ月後に生活改善の支援や取組みを評価</li> <li>・実施体制(令和4年(2022年)度):保健師2名</li> </ul>																											
評価(アウトプット・アウトカム)	<p>【図表15】特定保健指導実施率</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>平成28年 (2016年)度</th> <th>平成29年 (2017年)度</th> <th>平成30年 (2018年)度</th> <th>令和元年 (2019年)度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>割合</td> <td>59.70%</td> <td>37.90%</td> <td>62.70%</td> <td>31.70%</td> </tr> <tr> <td>県内順位</td> <td>13位</td> <td>20位</td> <td>16位</td> <td>32位</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>令和2年度 (2020年)度</th> <th>令和3年度 (2021年)度</th> <th>令和4年度 (2022年)度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>割合</td> <td>30.60%</td> <td>46.50%</td> <td>15.90%</td> </tr> <tr> <td>県内順位</td> <td>28位</td> <td>22位</td> <td>40位</td> </tr> </tbody> </table> <p>令和4年度特定保健指導実施率は15.9%(法定報告値)であり、目標値には達していない。年度によって実施率の変動が大きい。</p>		平成28年 (2016年)度	平成29年 (2017年)度	平成30年 (2018年)度	令和元年 (2019年)度	割合	59.70%	37.90%	62.70%	31.70%	県内順位	13位	20位	16位	32位		令和2年度 (2020年)度	令和3年度 (2021年)度	令和4年度 (2022年)度	割合	30.60%	46.50%	15.90%	県内順位	28位	22位	40位
	平成28年 (2016年)度	平成29年 (2017年)度	平成30年 (2018年)度	令和元年 (2019年)度																								
割合	59.70%	37.90%	62.70%	31.70%																								
県内順位	13位	20位	16位	32位																								
	令和2年度 (2020年)度	令和3年度 (2021年)度	令和4年度 (2022年)度																									
割合	30.60%	46.50%	15.90%																									
県内順位	28位	22位	40位																									

【図表 16】メタボリックシンドローム該当者割合

	平成28年 (2016年)度	平成29年 (2017年)度	平成30年 (2018年)度	令和元年 (2019年)度
人数	851人	860人	936人	909人
割合	21.80%	21.80%	24.30%	24.60%
県内順位	1位	2位	1位	1位

	令和2年度 (2020年)度	令和3年度 (2021年)度	令和4年度 (2022年)度
人数	891人	990人	948人
割合	26.50%	26.70%	26.00%
県内順位	1位	1位	1位

令和4年(2022年)度メタボリックシンドローム該当者割合は26.0%(法定報告値)であり、平成28年(2016年)度から年々増加している。平成30年(2018年)10月より糖尿病治療中の者を対象とした情報提供事業を開始したことや令和3年(2021年)度より特定健康診査受診率が上昇したことから、メタボリックシンドローム該当者が増加していると考えられる。

課題

家庭訪問は保健指導従事者のマンパワーにより実施率に変動があることから、来所面接者の増加に向けて、案内文書の変更等、アプローチ方法を検討する。

保健指導従事者の定期的な学習会を実施し、スキルアップに努める。

メタボリックシンドローム該当者割合を減らすために、特定保健指導は優先順位付けをし、重症度の高い者には確実にアタックし、効率的・効果的な保健指導を実施する。

羽島市保健師だけでなく、外部委託化も行い民間活力を活かした特定保健指導を行う。

### ③糖尿病性腎症重症化予防

目的	糖尿病が重症化するリスクの高い医療機関未受診者・治療中断者を対象として、適切に医療に結び付けるとともに、糖尿病性腎症を発症するリスクの高い者に対し医療機関と連携し保健指導を行うことで、人工透析への移行を防止する。																																																																																																																									
実施（ストラクチャー・プロセス）	<p>平成29年（2017年）9月「羽島市糖尿病性腎症重症化予防プログラム」策定</p> <p>① 医療機関未受診者 当該年度の健診において、空腹時血糖 126mg/dl または HbA1c（NGSP）6.5%以上のうち、質問票にて服薬なしと回答した者</p> <p>② 糖尿病治療中断者 過去3年程度の健診結果において、HbA1c（NGSP）6.5%以上が確認されている者のうち、糖尿病通院中で最終の受診日から6ヵ月以上経過しても受診した記録がない者</p> <p>受診勧奨：対象者に対して受診勧奨文を送付 保健指導：健診結果の重症度の高い者に保健指導を実施。連絡票及び糖尿病連携手帳を配布し、医療機関を受診した際に本人が持参。医療機関を受診した場合、医療機関より市に連絡票が郵送される</p> <p>③令和5年（2023年）10月「羽島市糖尿病性腎症重症化予防プログラム」改定</p> <p>糖尿病性腎症を発症するリスクの高い者に対し医療機関と連携し保健指導を開始。</p>																																																																																																																									
評価（アウトプット・アウトカム）	<p>【図表 17】糖尿病性腎症重症化予防プログラム実施状況</p> <table border="1" data-bbox="427 1294 1385 2027"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>平成29年 (2017年)度</th> <th>平成30年度 (2018年)度</th> <th>令和元年度 (2019年)度</th> <th>令和2年度 (2020年)度</th> <th>令和3年度 (2021年)度</th> <th>令和4年度 (2022年)度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">対象者数</td> <td>未受診者</td> <td>112人</td> <td>104人</td> <td>111人</td> <td>21人</td> <td>32人</td> <td>17人</td> </tr> <tr> <td>中断者</td> <td>9人</td> <td>14人</td> <td>8人</td> <td>6人</td> <td>12人</td> <td>6人</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">受診勧奨人数</td> <td>未受診者</td> <td>112人</td> <td>104人</td> <td>111人</td> <td>21人</td> <td>32人</td> <td>17人</td> </tr> <tr> <td>中断者</td> <td>9人</td> <td>14人</td> <td>8人</td> <td>6人</td> <td>12人</td> <td>6人</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">受診勧奨率</td> <td>未受診者</td> <td>100%</td> <td>100%</td> <td>100%</td> <td>100%</td> <td>100%</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>中断者</td> <td>100%</td> <td>100%</td> <td>100%</td> <td>100%</td> <td>100%</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">保健指導実施人数</td> <td>未受診者</td> <td>71人</td> <td>80人</td> <td>19人</td> <td>9人</td> <td>21人</td> <td>17人</td> </tr> <tr> <td>中断者</td> <td>5人</td> <td>13人</td> <td>3人</td> <td>5人</td> <td>7人</td> <td>3人</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">保健指導実施率</td> <td>未受診者</td> <td>63.4%</td> <td>76.9%</td> <td>17.1%</td> <td>42.9%</td> <td>65.6%</td> <td>47.0%</td> </tr> <tr> <td>中断者</td> <td>55.6%</td> <td>92.9%</td> <td>37.5%</td> <td>83.3%</td> <td>58.3%</td> <td>50.0%</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">医療機関受診人数</td> <td>未受診者</td> <td>79人</td> <td>76人</td> <td>95人</td> <td>17人</td> <td>18人</td> <td>11人</td> </tr> <tr> <td>中断者</td> <td>5人</td> <td>8人</td> <td>5人</td> <td>3人</td> <td>9人</td> <td>5人</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">医療機関受診率</td> <td>未受診者</td> <td>70.5%</td> <td>73.1%</td> <td>85.6%</td> <td>81.0%</td> <td>56.3%</td> <td>64.7%</td> </tr> <tr> <td>中断者</td> <td>55.6%</td> <td>57.1%</td> <td>62.5%</td> <td>50.0%</td> <td>75.0%</td> <td>83.3%</td> </tr> <tr> <td>連絡票発行数</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>3人</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			平成29年 (2017年)度	平成30年度 (2018年)度	令和元年度 (2019年)度	令和2年度 (2020年)度	令和3年度 (2021年)度	令和4年度 (2022年)度	対象者数	未受診者	112人	104人	111人	21人	32人	17人	中断者	9人	14人	8人	6人	12人	6人	受診勧奨人数	未受診者	112人	104人	111人	21人	32人	17人	中断者	9人	14人	8人	6人	12人	6人	受診勧奨率	未受診者	100%	100%	100%	100%	100%	100%	中断者	100%	100%	100%	100%	100%	100%	保健指導実施人数	未受診者	71人	80人	19人	9人	21人	17人	中断者	5人	13人	3人	5人	7人	3人	保健指導実施率	未受診者	63.4%	76.9%	17.1%	42.9%	65.6%	47.0%	中断者	55.6%	92.9%	37.5%	83.3%	58.3%	50.0%	医療機関受診人数	未受診者	79人	76人	95人	17人	18人	11人	中断者	5人	8人	5人	3人	9人	5人	医療機関受診率	未受診者	70.5%	73.1%	85.6%	81.0%	56.3%	64.7%	中断者	55.6%	57.1%	62.5%	50.0%	75.0%	83.3%	連絡票発行数				3人			
		平成29年 (2017年)度	平成30年度 (2018年)度	令和元年度 (2019年)度	令和2年度 (2020年)度	令和3年度 (2021年)度	令和4年度 (2022年)度																																																																																																																			
対象者数	未受診者	112人	104人	111人	21人	32人	17人																																																																																																																			
	中断者	9人	14人	8人	6人	12人	6人																																																																																																																			
受診勧奨人数	未受診者	112人	104人	111人	21人	32人	17人																																																																																																																			
	中断者	9人	14人	8人	6人	12人	6人																																																																																																																			
受診勧奨率	未受診者	100%	100%	100%	100%	100%	100%																																																																																																																			
	中断者	100%	100%	100%	100%	100%	100%																																																																																																																			
保健指導実施人数	未受診者	71人	80人	19人	9人	21人	17人																																																																																																																			
	中断者	5人	13人	3人	5人	7人	3人																																																																																																																			
保健指導実施率	未受診者	63.4%	76.9%	17.1%	42.9%	65.6%	47.0%																																																																																																																			
	中断者	55.6%	92.9%	37.5%	83.3%	58.3%	50.0%																																																																																																																			
医療機関受診人数	未受診者	79人	76人	95人	17人	18人	11人																																																																																																																			
	中断者	5人	8人	5人	3人	9人	5人																																																																																																																			
医療機関受診率	未受診者	70.5%	73.1%	85.6%	81.0%	56.3%	64.7%																																																																																																																			
	中断者	55.6%	57.1%	62.5%	50.0%	75.0%	83.3%																																																																																																																			
連絡票発行数				3人																																																																																																																						

【図表 18】人工透析患者数、費用額（40～74 歳国保）

	平成28年 (2016年)度	平成29年 (2017年)度	平成30年 (2018年)度	令和元年 (2019年)度
人数	49人	45人	41人	38人
費用額	3,353万4,480円	2,727万8,300円	2,179万7,520円	2,563万9,340円

	令和2年度 (2020年)度	令和3年度 (2021年)度	令和4年度 (2022年)度
人数	35人	43人	50人
費用額	2,885万3,310円	2,442万9,780円	2,781万770円

出展：KDB 厚生労働省様式 2-2 毎年 5 月診療

令和 2 年（2020 年）度以降対象者をより重症化リスクの高い者を優先的に対応することとしたが、実施率・受診率とも変動が大きい。

課題

医療機関との連携強化。令和元年（2019 年）8 月より導入した連絡票や糖尿病連携手帳の活用を広げ、医療機関と連携して受診勧奨や保健指導を実施する。

糖尿病性腎症等で通院する重症化するリスクの高い者に対するかかりつけ医と連携した予防事業を行う。



④ポピュレーションアプローチ

<p>目的</p>	<p>当市の健康に関する実態やその原因となっている地域特性、健診結果と生活習慣の関係、生活習慣病予防・重症化予防のための生活習慣(日本人の食事摂取基準の基本的な考えを基にした食習慣等)を広く被保険者へ周知し、一人一人が生活習慣病予防に努める。</p>																									
<p>実施（ストラクチャー・プロセス）</p>	<p>① 健康教育(出前講座)等の実施 ② 市ホームページ等による健幸づくりに関する情報の掲載 ③ 健幸づくり推進員研修会、健幸づくり教室の実施</p>																									
<p>評価（アウトプット・アウトカム）</p>	<p>健康教育(出前講座) 保健師・管理栄養士・歯科衛生士が地域団体の集会等に出向き、健康教育を実施。令和2年(2020年)度と令和3年(2021年)度は、新型コロナウイルス感染症の影響により健康教育(出前講座)の実施ができない時期があり実施回数が減少したが、令和4年(2022年)度は11回実施し229人の市民が参加した。コロナ禍においては、健幸づくりに関する動画を作成し、市ホームページで動画を放映した。</p> <p><b>【図表 19】 集団健康教育実施状況</b></p> <table border="1" data-bbox="405 1059 1337 1205"> <thead> <tr> <th></th> <th>令和元年 (2019年)度</th> <th>令和元年 (2020年)度</th> <th>令和元年 (2021年)度</th> <th>令和元年 (2022年)度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>回数</td> <td>20回</td> <td>0回</td> <td>2回</td> <td>11回</td> </tr> <tr> <td>参加者</td> <td>405人</td> <td>0人</td> <td>23人</td> <td>229人</td> </tr> </tbody> </table> <p>健幸づくり推進員研修会、健幸づくり教室(令和4年(2022年)度) 令和4年(2022年)度は年間4回の研修会を実施し、当市の健康実態や健康的な生活習慣を身につけるための情報を提供し、健幸づくりを啓発した。 健幸づくり教室は、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため開催を見合わせた。</p> <p><b>【図表 20】健幸づくり推進員研修会、健幸づくり教室(令和4年(2022年)度)実施状況</b></p> <table border="1" data-bbox="405 1668 1337 1794"> <thead> <tr> <th>内容</th> <th>市の健康実態こころの健康</th> <th>歯科・栄養</th> <th>運動</th> <th>認知症</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>推進員</td> <td>47人</td> <td>37人</td> <td>33人</td> <td>29人</td> </tr> </tbody> </table>		令和元年 (2019年)度	令和元年 (2020年)度	令和元年 (2021年)度	令和元年 (2022年)度	回数	20回	0回	2回	11回	参加者	405人	0人	23人	229人	内容	市の健康実態こころの健康	歯科・栄養	運動	認知症	推進員	47人	37人	33人	29人
	令和元年 (2019年)度	令和元年 (2020年)度	令和元年 (2021年)度	令和元年 (2022年)度																						
回数	20回	0回	2回	11回																						
参加者	405人	0人	23人	229人																						
内容	市の健康実態こころの健康	歯科・栄養	運動	認知症																						
推進員	47人	37人	33人	29人																						
<p>課題</p>	<p>健幸づくりに関する教室や健康教育を継続するとともに、市ホームページや SNS を通して、生活習慣病予防に関する啓発を行う。</p>																									

## 2. 目標に対する最終評価

【図表 21】 目標管理一覧

関連計画	健康課題	課題を解決するための目標	初期値		中間評価値			最終評価値		目標値	達成状況	現状値の把握方法
			平成28年(2016年)度	平成29年(2017年)度	平成30年(2018年)度	令和元年(2019年)度	令和2年(2020年)度	令和3年(2021年)度	令和4年(2022年)度	令和5年(2023年)度		
特定健診等 データヘルス計画	①予防可能な疾患(脳血管疾患・虚血性心疾患)による若年死亡が多い。 ②虚血性心疾患に係わる医療費、特に入院費用額が増加している。  考えられる背景 ・メタボリックシンドローム該当者が多い ・血圧やHbA1cの有所見者が5割以上と多い ・特定健康診査受診率が低い	虚血性心疾患の総医療費に占める割合0.1%減少	3.27%	2.04%	2.13%	1.66%	1.56%	2.16%	2.17%	3.17%	達成	KDB帳票「健診・医療介護データからみる地域の健康課題」
		特定健康診査受診率60%以上	33.4%	35.2%	36.0%	36.3%	33.5%	38.8%	40.7%	60.0%	未達成	法定報告
		特定保健指導実施率63%以上	59.7%	37.9%	62.7%	31.7%	30.6%	46.5%	15.9%	63.0%	未達成	
		メタボリックシンドローム該当者割合1.8%減少	21.8%	21.8%	24.3%	24.6%	26.5%	26.7%	26.0%	20.0%	未達成	KDB帳票「地域の全体像の把握」
		Ⅱ度高血圧以上の割合0.3%減少	6.1%	6.5%	7.0%	7.0%	9.1%	9.3%	9.1%	5.8%	未達成	特定健診受診者データ(特定健診等データ管理システムより)
HbA1c6.5%以上の割合0.3%減少	7.6%	7.6%	9.1%	9.7%	10.0%	9.6%	10.0%	7.3%	未達成			
症糖 化尿 予病 防性 プ腎 ロ症 グ重												

### (1) 中長期的な目標の評価

#### 中長期的な目標

令和5年(2023年)度の総医療費に占める虚血性心疾患(狭心症、心筋梗塞)に係わる医療費の割合を、平成28年度と比較して0.1%減少させる。

令和4年(2022年)度の総医療費46億7,672万1,280円のうち、虚血性心疾患に係わる医療費は1億127万7,170円であり、総医療費に占める割合は2.17%であった。平成28年(2016年)度と比較して1.1%減少しており、目標は達成している。

(図表 22)

【図表 22】 総医療費に占める虚血性心疾患の割合

	平成28年度 (2016年)度	平成29年度 (2017年)度	平成30年度 (2018年)度	令和元年度 (2019年)度
	費用額	費用額	費用額	費用額
総医療費	51億6,771万9,980円	51億8,935万9,730円	48億1,126万2,730円	46億4,442万3,490円
虚血性心疾患に 係わる医療費	1億6,890万8,600円	1億576万300円	1億233万350円	7,731万1,300円
総医療費に占める割合	3.27%	2.04%	2.13%	1.66%

	令和2年度 (2020年)度	令和3年度 (2021年)度	令和4年度 (2022年)度
	費用額	費用額	費用額
総医療費	45億2,468万6,480円	48億221万2,020円	46億7,672万1,280円
虚血性心疾患に 係わる医療費	7,077万8,190円	1億387万9,470円	1億127万7,170円
総医療費に占める割合	1.56%	2.16%	2.17%

出典：KDB帳票「健診・医療・介護データからみる地域の健康課題」

被保険者数の減少により、虚血性心疾患患者数は減少しているが、割合は増加している。令和4年（2022年）度の狭心症の千人当たり新規患者数は平成28年（2016年）度と比較して減少しており、同規模市町村より減少幅が大きい。令和4年（2022年）度の虚血性心疾患に係わる医療費は入院7,697万5,220円、外来2,430万1,950円であり、平成28年（2016年）度と比較すると入院・外来医療費ともに大幅に減少しているが、入院費の減少が顕著である。（図表 23）

【図表 23】 虚血性心疾患（狭心症・心筋梗塞）の患者数・医療費

虚血性心疾患				狭心症 新規患者数 (千人当たり)		医療費 *狭心症・心筋梗塞		
				羽島市	同規模 市町村	入院	外来	
	被保険者数	人数	割合					
平成28年 (2016年)度	全体	18,172	801	4.4%	3.858	3.282	1億2,730万9,090円	4,159万9,510円
	64歳以下	11,071	171	1.5%				
	65歳以上	7,101	630	8.9%				
平成29年 (2017年)度	全体	17,024	779	4.6%	3.597	3.258	7,404万9,810円	3,171万490円
	64歳以下	10,004	146	1.5%				
	65歳以上	7,020	633	9.0%				
平成30年 (2018年)度	全体	16,147	733	4.5%	3.305	3.142	7,163万7,950円	3,069万2,400円
	64歳以下	9,293	140	1.5%				
	65歳以上	6,854	593	8.7%				
令和元年 (2019年)度	全体	15,362	695	4.5%	3.036	3.003	4,740万5,320円	2,990万5,980円
	64歳以下	8,767	136	1.6%				
	65歳以上	6,595	559	8.5%				
令和2年 (2020年)度	全体	14,790	645	4.4%	3.017	2.851	4,386万7,340円	2,691万850円
	64歳以下	8,400	125	1.5%				
	65歳以上	6,390	520	8.1%				
令和3年 (2021年)度	全体	14,497	659	4.5%	3.241	2.731	7,527万9,110円	2,860万360円
	64歳以下	8,167	134	1.6%				
	65歳以上	6,330	525	8.3%				
令和4年 (2022年)度	全体	13,938	641	4.6%	3.129	2.609	7,697万5,220円	2,430万1,950円
	64歳以下	7,768	122	1.6%				
	65歳以上	6,170	519	8.4%				

出典：KDB帳票「厚生労働省様式(様式3-5)虚血性心疾患のレセプト分析」\*毎年5月診療  
「医療費分析(1)細小分類」患者千人当たり生活習慣病新規患者数 狭心症の値 \*年度累計  
「疾病別医療費分析(細小(82)分類)-1保険者当たり総点数(入院、外来)」×10(円) \*年度累計

入院1件当たりの費用額をみると、狭心症・心筋梗塞ともに平成28年（2016年）度より増加している。同規模市町村と比較しても高い。（図表 24）

【図表 24】 虚血性心疾患の入院 1 件あたり費用額

	平成28年(2016年)度		平成29年(2017年)度		平成30年(2018年)度		令和元年(2019年)度	
	羽島市	同規模市町村	羽島市	同規模市町村	羽島市	同規模市町村	羽島市	同規模市町村
狭心症	82万9,780円	69万1,250円	80万7,340円	78万1,030円	72万180円	69万6,970円	56万3,190円	72万4,370円
心筋梗塞	159万1,460円	151万4,890円	123万6,440円	144万3,490円	140万8,710円	145万3,380円	89万8,910円	143万9,560円

	令和2年(2020年)度		令和3年(2021年)度		令和4年(2022年)度	
	羽島市	同規模市町村	羽島市	同規模市町村	羽島市	同規模市町村
狭心症	63万8,430円	73万680円	84万1,830円	77万2,900円	108万2,610円	77万5,060円
心筋梗塞	111万4,480円	141万3,910円	96万9,330円	149万3,090円	283万6,790円	144万5,510円

出典:KDB帳票「疾病別医療費分析(細小(82)分類)-レセプト1件あたり点数(入院)」×10(円)

外来 1 件当たりの費用額をみると、狭心症・心筋梗塞ともに平成 28 年(2016 年)度より減少している。同規模市町村と比べても低い。(図表 25)

【図表 25】 虚血性心疾患の外来 1 件あたり費用額

	平成28年(2016年)度		平成29年(2017年)度		平成30年(2018年)度		令和元年(2019年)度	
	羽島市	同規模市町村	羽島市	同規模市町村	羽島市	同規模市町村	羽島市	同規模市町村
狭心症	2万5,200円	2万4,410円	2万2,860円	2万4,220円	2万2,530円	2万2,820円	2万1,970円	2万2,670円
心筋梗塞	2万6,120円	2万9,110円	1万8,170円	2万9,220円	2万5,910円	2万7,590円	2万5,910円	2万8,610円

	令和2年(2020年)度		令和3年(2021年)度		令和4年(2022年)度	
	羽島市	同規模市町村	羽島市	同規模市町村	羽島市	同規模市町村
狭心症	2万0,610円	2万2,300円	2万1,410円	2万2,340円	2万0,090円	2万1,860円
心筋梗塞	2万1,810円	2万8,590円	2万2,040円	2万9,180円	2万1,710円	2万9,250円

出典:KDB帳票「疾病別医療費分析(細小(82)分類)-レセプト1件あたり点数(外来)」×10(円)

## (2) 短期的な目標の評価

### 短期的な目標 1

令和 5 年(2023 年)度の特定健康診査受診率 60%、特定保健指導実施率 63%にする。

令和 4 年(2022 年)度特定健康診査受診率は 40.7%であり、令和 2 年(2020 年)度の新型コロナウイルス感染症に伴う受診控えを除き平成 28 年(2016 年)度より増加傾向にあるものの、目標は未達成である。

令和 4 年(2022 年)度特定保健指導実施率は 15.9%であり、平成 28 年(2016 年)度と比較して 43.8 ポイント減少しており、目標は達成できていない。特定保健指導は、年度によって実施率が変動している。(図表 26)

【図表 26】 特定健康診査・特定保健指導の推移

		平成28年度 (2016年)度	平成29年度 (2017年)度	平成30年度 (2018年)度	令和元年度 (2019年)度
特定健康診査	対象者数	11,684人	11,190人	10,663人	10,194人
	受診者数	3,907人	3,938人	3,844人	3,696人
	受診率	33.4%	35.2%	36.0%	36.3%
特定保健指導	対象者数	439人	506人	491人	486人
	修了者数	262人	192人	308人	154人
	実施率	59.7%	37.9%	62.7%	31.7%

		令和2年度 (2020年)度	令和3年度 (2021年)度	令和4年度 (2022年)度
特定健康診査	対象者数	10,033人	9,579人	8,935人
	受診者数	3,361人	3,714人	3,641人
	受診率	33.5%	38.8%	40.7%
特定保健指導	対象者数	422人	456人	446人
	修了者数	129人	212人	71人
	実施率	30.6%	46.5%	15.9%

出典：特定健診等の実施状況報告（法定報告）

短期的な目標 2

令和 5 年（2023 年）度のメタボリックシンドローム該当者割合を、平成 28 年（2016 年）度と比較して 1.8%減少させる。

令和 4 年（2022 年）度メタボリックシンドローム該当者割合は 26.0%であり、平成 28 年（2016 年）度より 4.2 ポイント増加し、目標は未達成である。本市はメタボリックシンドローム該当者割合が岐阜県内において最も多い状況が続いている。（図表 27）

【図表 27】 メタボリックシンドローム該当者割合の推移

		平成28年度 (2016年)度	平成29年度 (2017年)度	平成30年度 (2018年)度	令和元年度 (2019年)度
メタボリックシンドローム 該当者割合	人数	851人	860人	936人	909人
	割合	21.8%	21.8%	24.3%	24.6%
県内順位		1位	2位	1位	1位

		令和2年度 (2020年)度	令和3年度 (2021年)度	令和4年度 (2022年)度
メタボリックシンドローム 該当者割合	人数	891人	990人	948人
	割合	26.5%	26.7%	26.0%
県内順位		1位	1位	1位

出典：KDB帳票「地域の全体像」

当市のメタボリックシンドローム該当者及び予備軍の割合は岐阜県・同規模市町村・国より高い。リスクの重なりをみると、「血圧・脂質」が 12.6%と最も高く、続いて「血糖・血圧・脂質」が 10.0%と高い。どちらも岐阜県・同規模市町村・国より高く、また平成 28 年（2016 年）度より高くなっている。羽島市は複数のリスクを重複して保有する者が多いことがわかる。

特定保健指導において、令和元年（2019 年）度からは、メタボリックシンドローム

ム3項目（血糖・血圧・脂質）該当、血圧Ⅱ度高血圧以上、中性脂肪 300mg/dl 以上、LDL コレステロール 180mg/dl 以上、HbA1c6.5%以上等の者を優先順位の高い者と選定し、優先的に保健指導を実施しており、今後も受診や生活習慣改善に繋がる保健指導を実践していく。（図表 28）

【図表 28】メタボリックシンドローム該当者・予備群の比較

		羽島市			岐阜県	同規模市町村	国
		平成28年 (2016年)度	令和元年 (2019年)度	令和4年 (2022年)度	令和4年 (2022年)度	令和4年 (2022年)度	令和4年 (2022年)度
メタボ	該当者	21.8%	24.6%	26.0%	20.2%	20.9%	20.6%
	男性	32.0%	35.9%	37.7%	32.0%	32.7%	32.9%
	女性	14.2%	16.0%	17.0%	11.2%	11.5%	11.3%
	予備群	9.4%	10.5%	10.7%	10.4%	11.0%	11.1%
	男性	14.8%	17.0%	17.3%	16.8%	17.5%	17.8%
メタボ該当・予備群レベル	女性	5.3%	5.6%	5.6%	5.5%	6.0%	6.0%
	腹囲	33.4%	36.9%	38.9%	33.6%	35.0%	34.9%
	男性	50.4%	55.6%	58.2%	53.6%	55.0%	55.8%
	女性	20.7%	23.0%	23.9%	18.4%	19.3%	19.1%
	BMI	4.4%	5.8%	5.4%	4.6%	4.8%	4.7%
	男性	1.8%	1.7%	2.3%	1.7%	1.6%	1.6%
	女性	6.4%	8.8%	7.8%	6.8%	7.4%	7.1%
	血糖のみ	0.6%	0.6%	0.5%	0.5%	0.7%	0.6%
	血圧のみ	6.0%	6.8%	7.8%	6.8%	7.4%	7.1%
	脂質のみ	2.8%	3.0%	2.4%	2.7%	2.6%	2.6%
	血糖・血圧	2.3%	2.4%	2.3%	2.5%	3.1%	3.0%
	血糖・脂質	0.9%	0.6%	1.2%	1.0%	1.1%	1.0%
	血圧・脂質	12.2%	12.9%	12.6%	10.0%	9.7%	9.8%
	血糖・血圧・脂質	6.4%	8.6%	10.0%	6.6%	7.0%	6.8%

出典：KDB帳票「地域の全体像の把握」

短期的な目標 3

令和5年（2023年）度のⅡ度高血圧（160mmHg/100mmHg）以上の割合を、平成28年（2016年）度と比較して0.3%減少させる。

令和4年（2022年）度のⅡ度高血圧以上該当者割合は9.1%であり、平成28年（2016年）度と比較して3.0ポイント増加し、目標は未達成である。（図表 29）

【図表 29】Ⅱ度高血圧以上の該当者の割合の経年変化

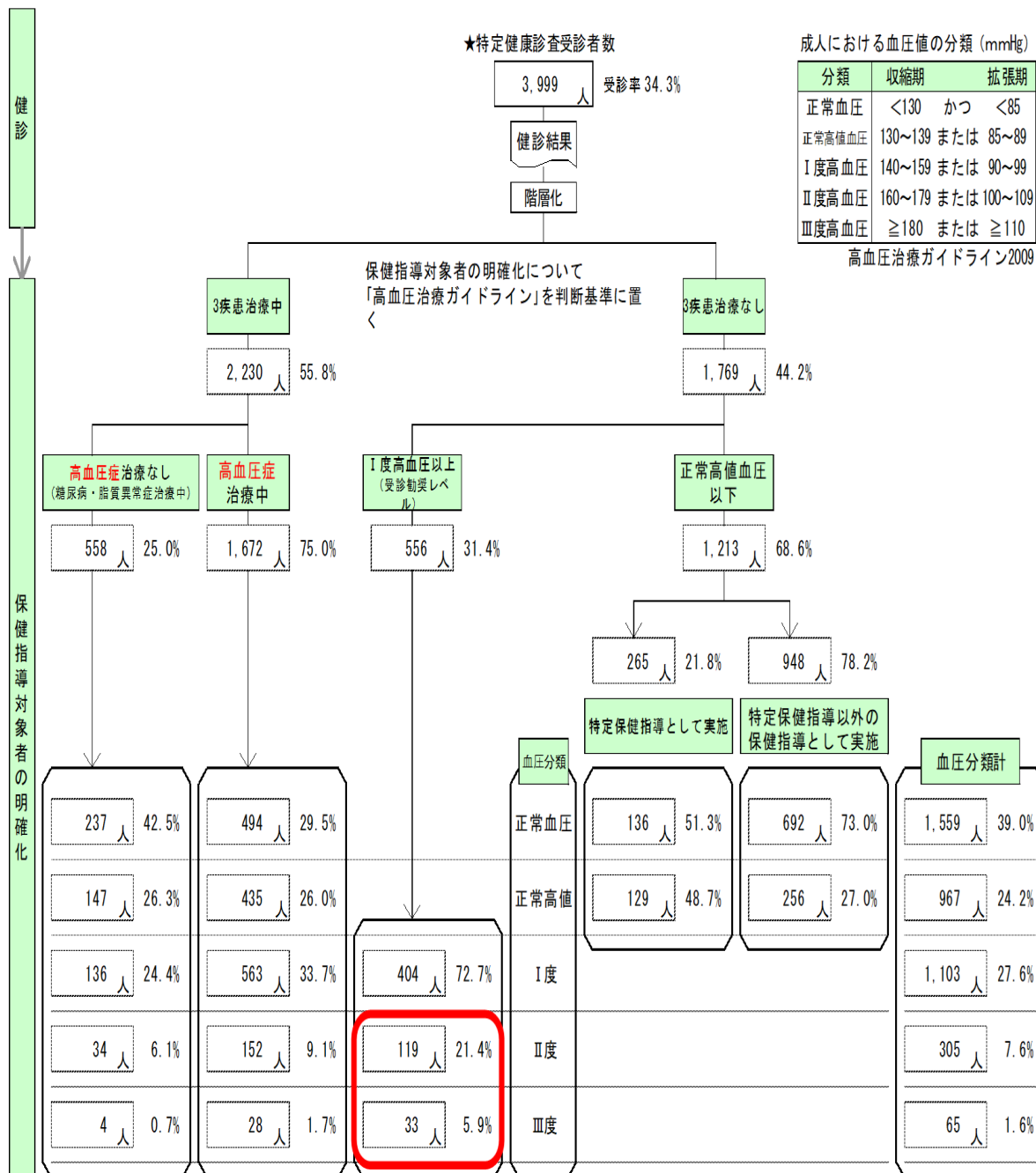
		平成28年 (2016年)度	平成29年 (2017年)度	平成30年 (2018年)度	令和元年 (2019年)度
Ⅱ度高血圧以上 (160/100以上)	人数	238人	271人	288人	278人
	割合	6.1%	6.5%	7.0%	7.0%

		令和2年 (2020年)度	令和3年 (2021年)度	令和4年 (2022年)度
Ⅱ度高血圧以上 (160/100以上)	人数	308	346	333
	割合	9.2%	9.3%	9.1%

出典：特定健診等データ管理システム

Ⅱ度高血圧以上該当者のうち、3疾患（血圧・血糖・脂質異常症）にて治療していない者は152人いる。このうち、特定保健指導対象者に対しては、早急に適切な医療を受けられるように受診勧奨をしたり、治療を中断しないように治療の必要性について保健指導をしたりして、その割合を減少させていく必要がある。（図表30）

【図表 30】 高血圧フローチャート



出典:令和4年(2022年)度特定健診受診者データ(特定健診等データ管理システム ※除外含む)

短期的な目標 4

令和5年(2023年)度のHbA1c6.5%以上の割合を、平成28年度と比較して0.3%減少させる。

令和元年(2019年)度のHbA1c6.5%以上の該当者割合は10.0%であり、平成28年(2016年)度と比較して2.4%増加し、目標は未達成である。(図表31)

平成30年(2018年)10月より糖尿病治療中の者を対象として、情報提供事業を開始したことや特定健康診査受診率が上昇したことから、平成30年(2018年)度以降、該当者割合が大幅に増加していると考えられる。

【図表31】HbA1c6.5%以上の該当者割合

		平成28年 (2016年)度	平成29年 (2017年)度	平成30年 (2018年)度	令和元年 (2019年)度
HbA1c6.5%以上の割合	人数	289人	324人	370人	385人
	割合	7.6%	7.6%	9.1%	9.7%

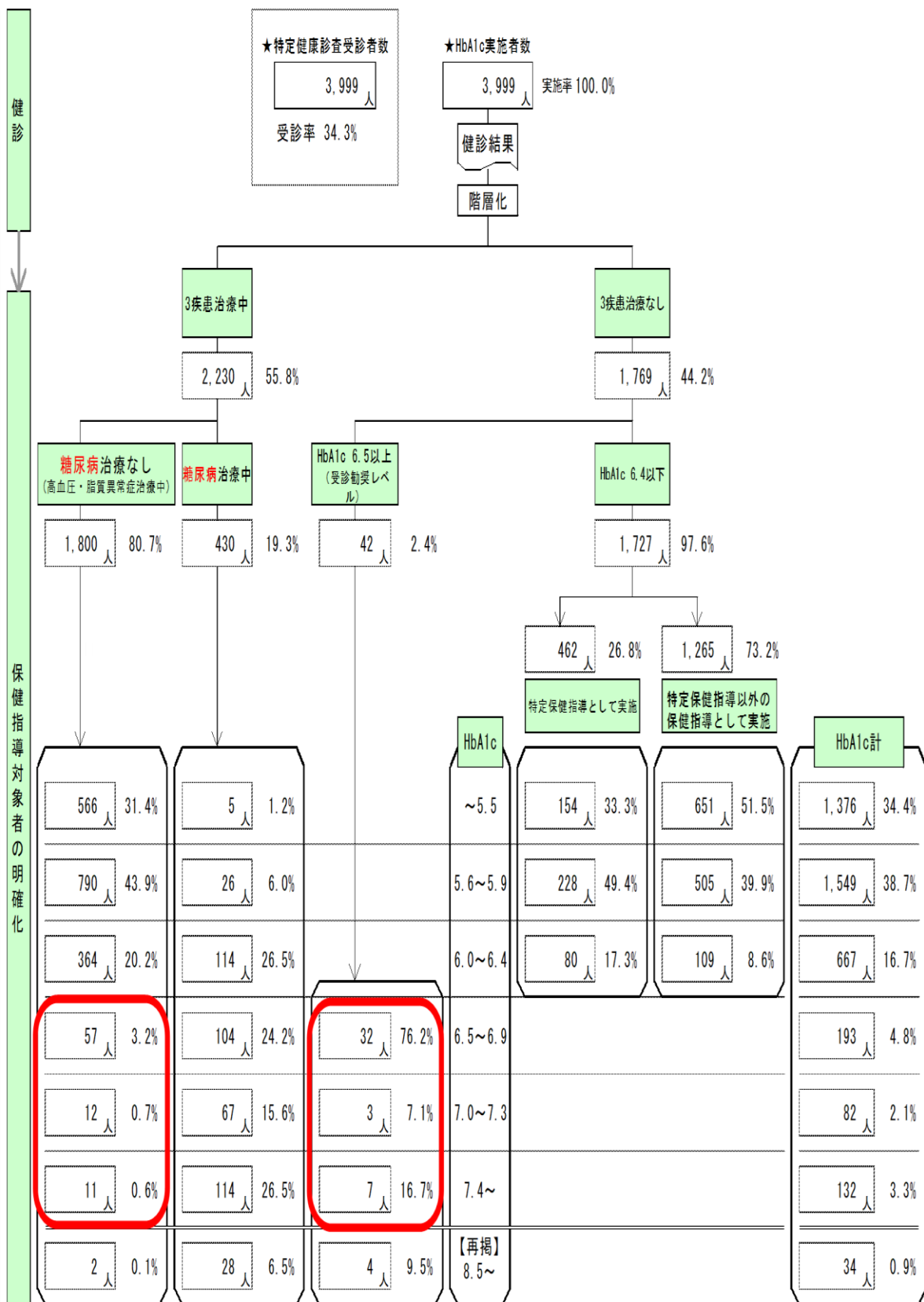
		令和2年 (2020年)度	令和3年 (2021年)度	令和4年 (2022年)度
HbA1c6.5%以上の割合	人数	336人	354人	363人
	割合	10.0%	9.5%	10.0%

出典：特定健診等データ管理システム

HbA1c6.5%以上該当者のうち、糖尿病未治療者は122人いる。このうち、糖尿病性腎症重症化予防プログラムの対象者については、早急に適切な医療を受けられるように受診勧奨をしたり、治療を中断しないように治療の必要性について保健指導をしたりして、その割合を減少させていく必要がある。(図表32)



【図表 32】 糖尿病フローチャート



出典: 令和4年(2022年)度特定健診受診者データ(特定健診等データ管理システム ※除外含む)

当市では平成29年（2017年）9月に羽島市糖尿病性腎症重症化予防プログラムを策定し、未受診者および治療中断者に対して受診勧奨及び保健指導を実施している。令和4年（2022年）度は未受診者の64.7%、中断者の83.3%が医療機関受診へ繋がった。今後も医療機関受診が必要な者には受診勧奨や治療継続への働きかけをするとともに、食事指導や肥満解消、運動習慣の獲得等、個別性を重視した保健指導を実施していく必要がある。令和5年（2023年）度からは、糖尿病性腎症等で通院する重症化するリスクの高い者に対するかかりつけ医と連携した予防事業も行っている。（図表33）

【図表33】糖尿病性腎症重症化予防プログラム実施状況

		平成29年 (2017年)度	平成30年 (2018年)度	令和元年 (2019年)度	令和2年 (2020年)度	令和3年 (2021年)度	令和4年 (2022年)度
対象者数	未受診者	112人	104人	111人	21人	32人	17人
	中断者	9人	14人	8人	6人	12人	6人
受診勧奨人数	未受診者	112人	104人	111人	21人	32人	17人
	中断者	9人	14人	8人	6人	12人	6人
受診勧奨率	未受診者	100%	100%	100%	100%	100%	100%
	中断者	100%	100%	100%	100%	100%	100%
保健指導実施人数	未受診者	71人	80人	19人	9人	21人	17人
	中断者	5人	13人	3人	5人	7人	3人
保健指導実施率	未受診者	63.4%	76.9%	17.1%	42.9%	65.6%	47.0%
	中断者	55.6%	92.9%	37.5%	83.3%	58.3%	50.0%
医療機関受診人数	未受診者	79人	76人	95人	17人	18人	11人
	中断者	5人	8人	5人	3人	9人	5人
医療機関受診率	未受診者	70.5%	73.1%	85.6%	81.0%	56.3%	64.7%
	中断者	55.6%	57.1%	62.5%	50.0%	75.0%	83.3%
連絡票発行数				3人			

### 3. 第3期計画目標値の設定

目標に対する最終評価を踏まえて、中長期的な目標、短期的な目標とも第3期も設定する。引き続きなお、中長期的な目標及び短期的な目標という区分は設けない。

その他、第3期に向け新たな目標も設定していく（詳細は「羽島市国民健康保険第3期保健事業実施計画(データヘルス計画)・第4期特定健康診査等実施計画」に記載）。（図表34）

【図表34】再設定後の目標管理一覧

※太枠の令和8年（2026年）度は中間評価年度、令和11年（2029年）度は最終評価年度。

評価指標	計画策定時 実績 令和4年 (2022年)度	目標値					
		令和6年 (2024年)度	令和7年 (2025年)度	令和8年 (2026年)度	令和9年 (2027年)度	令和10年 (2028年)度	令和11年 (2029年)度
特定健康診査受診率	40.7%	47.5%	50.0%	52.5%	55.0%	57.5%	60.0%
虚血性心疾患の総医療費に 占める割合0.1%減少	2.17%	2.15%	2.13%	2.11%	2.09%	2.08%	2.07%
特定保健指導実施率	15.9%	60.5%	61.0%	61.5%	62.0%	62.5%	63.0%
特定保健指導対象者数の 減少率	21.2%	22.0%	22.6%	23.2%	23.8%	24.4%	25.0%
メタボリックシンドローム 該当者割合1.8%減少	26.0%	25.7%	25.4%	25.1%	24.8%	24.5%	24.2%
特定健康診査受診者の Ⅱ度高血圧以上の割合0.3%減少	9.1%	9.1%	9.0%	9.0%	8.9%	8.9%	8.8%
特定健康診査受診者の HbA1c8.5%以上の者の割合0.3%減少	10.0%	10.0%	9.9%	9.9%	9.8%	9.8%	9.7%
特定健康診査受診者の HbA1c8.0%以上の者の割合0.3%減少	1.49%	1.39%	1.29%	1.19%	1.09%	0.99%	0.9%
人工透析患者数	49人	49人	48人	47人	46人	45人	44人
健幸増進教室等の参加者数	533人	750人	900人	1,050人	1,200人	1,350人	1,500人
健幸増進教室等の実施回数	21回	25回	30回	35回	40回	45回	50回
国民健康保険年間平均被保険者 に占める後発医薬品利用差額通 知書発行割合	2.6%	2.6%	2.6%	2.6%	2.6%	2.6%	2.6%
後発医薬品使用割合	74.7%	75.0%	76.0%	77.0%	78.0%	79.0%	80.0%
同一疾病について同一月内に同 一医療科目で3カ所以上の医療 機関を3カ月継続して受診した 被保険者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
重複・多剤服薬対象者 保健指導実施数	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人

## 第4章 評価の公表・周知及び個人情報の取扱い

### 1. 評価の公表・周知

実施した評価は、市ホームページに掲載する。

### 2. 個人情報の取扱い

羽島市における個人情報の取り扱いは、行政手続きにおける特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律（平成25年法律第27号）、によるものとし、庁内等での利用、外部委託事業者への業務委託等の各場面で、その保有する個人情報の適切な取扱いが確保されるよう措置を講じる。



---

羽島市第2期保健事業実施計画最終評価  
(データヘルス計画)

発行／羽島市（令和6年（2024年）3月）  
編集／羽島市市民部保険年金課  
岐阜県羽島市竹鼻町55番地  
TEL 058-392-1111

---